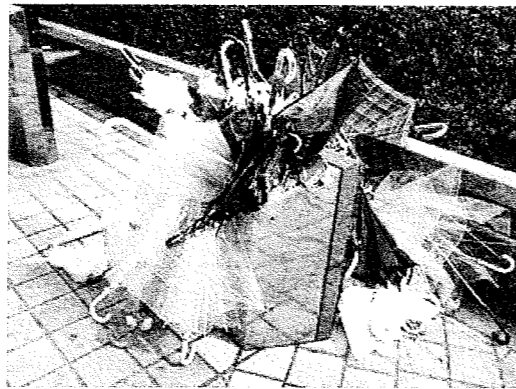


使い捨て傘



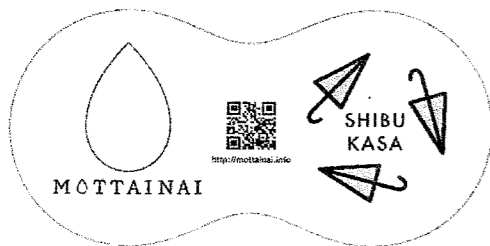
日本国内で年間およそ1億3000万本の傘が消費されています。これは、世界1位の消費量で、そのおよそ9割がビニール傘をしめています。

日本のビニール傘は、ほとんどが中国や東南アジアからの輸入品で、駅の売店や、コンビニ、100円ショップ等で安く手に入る為、大量消費につながっています。また、価格を安く抑える為、耐久性に乏しい事や大切に使用しない等、簡単に捨てられています。東京の地下鉄「東京メトロ」では、年間およそ6万8000本の傘の忘れ物があり、それを取りに来る人は1000人中わずか3人だそうです。本来、長く使用できるはずの傘が、まるで使い捨て商品のようにになっているのが、今の日本の現状のようです。



▲悲しいなあ...捨てられたビニール傘たち

この使い捨て状態の傘に疑問を持ち、マイ傘を持つと呼びかける「MOTTAINAIプロジェクト」や、いらなくなったビニール傘にアートなデザインを書き足し、渋谷で傘のシェアリングサービスを企画する団体「シブカサ」などが出てきました。また大手傘メーカーからは、パーツごとに選べる傘などもあり、分別しやすかったり、高価な傘を持って帰られない様に、ハンドル取り外してバックに入れて歩く裏技など...調べてみると、脱ビニール傘!という動きがありました。ただ、まだこれらは小さな動きで、傘は安い物、壊れたら簡単に買い換えできる物というイメージは日本人の多くが持っているように感じます。



海外事情を調べてみると、雨の多いイギリスでは、傘を持たない人が多く、雨が降ったら走るとか、商店街の軒下が長く雨宿りや、軒下沿いを歩いてしのいでいるようです。また、熱帯地方ではスコールの後、少々我慢すればすぐ乾くなど、傘を持ち歩く習慣のない国も多いようです。

近年はゲリラ豪雨や大きな台風が多くなってきて、傘ではなく雨合羽の方が重宝かも?と思ってしまうかもしれません。ビニール傘だけではなく、壊れた傘を廃棄しようとする時、布やプラスチック、金物の複合品である為その手間は意外と大変です。普段雨が降れば、やっぱり必要となる傘の持ち方、使い方を考え直してみませんか?

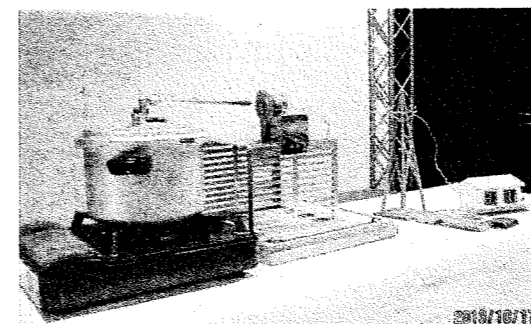
<<参考資料>> MOTTAINAIプロジェクト <http://mottainai-3r.jp/kasa/> シブカサ <http://shibukasa.com/index.html>

省エネルギー学習会 in エコテクノ

エコテクノは、環境産業の盛んな北九州市で開かれる西日本最大規模の環境ビジネス見本市です。今回で18回目の開催だそうです、この時期おなじみのイベントとなりました。そのエコテクノで初めて見学の小学生対象にした省エネ学習会が九州経済産業局主催で企画され、二日間にわたり同学習会の講師を務めてきました。会場の特性を考え、子ども達に身近な電気エネルギーを題材に、次のことを伝えました。

①ふりふり発電体験

2000年以上前から、摩擦により物を引きつける力(静電気)が起こるということは知られていたそうです。また、自然界の雷は大きな電力ですが、いずれも暮らしに利用することはできません。私たちが利用できる電気エネルギーは、180年ほど前にファラデーが発見した電磁誘導がはじめの一步です。子ども達は、ふりふりライトを使い、磁石とコイルの作用で照明が点灯することを体験しました。



▲火力発電所モデル

②安定したたくさんの電気の作り方

足こぎ発電体験で、家電を動かすのに必要な力を体感し、電灯の様子から発電量の不安定さも感じた子ども達に、火力発電所モデルによる、発電実験を見てもらいました。日常で目にするカセットコンロと圧力鍋の前に、タービンを回す力の元が何であるか、視覚的に確認できたようです。

③課題と「今私たちにできること」

現在電力供給の大半を担っているのは火力発電であり、化石燃料の枯渇の可能性・地球温暖化という二つの課題に対し、今私たちにできることを問いかけました。また、未来のおとなである子ども達に、課題を解決する新しい技術をしっかり見てきて欲しいと結び、見学に送り出しました。



国際シンポジウム ～ESDの視点から～ 参加報告

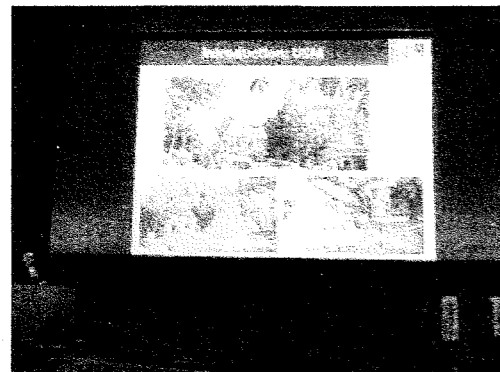
10月21日(月)北九州国際会議場で開催された、第6回アジア太平洋RCE地域会議開催記念「持続可能なライフスタイルに関する国際シンポジウム～ESDの始点から～」に参加してきました。エコけんは、同会議場のホワイエにて、九州ESD推進ネットワークの一員として、九州各県のESDに取り組む団体の皆さんとポスター参加しました。



▲掲示物は英語表記もありました

シンポジウムのプログラムは、以下の通りです。

- ① 基調講演「持続可能な地域社会を構築する上でのRCEの役割」
- ② アジア太平洋地域の6RCEによるプレゼンテーション
- ③ 持続可能なライフスタイルの推進に向けてESDは何ができるのか



シンポジウム参加を通して、個々のライフスタイルの変革が、地球レベル・国レベルの大きな問題にも求められていることが改めて確認できました。また、他国の活動報告を間近で聞くことで、世界共通の課題として身近に感じる事ができたのはライブだからこそです。「持続可能な開発」という言葉はいくぶん一般的になってきましたが、ESDについてはまだまだです。今回の学びをこれからのESD普及活動に活かしていきたいと思います。

※ESD(持続可能な開発のための教育: Education Sustainable Development)とは
持続可能な社会の実現を目指し、私たち一人ひとりが世界の人々や将来世代また環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育です。
「持続可能な開発」は「環境・社会・経済のバランスのとれた開発」といわれます。

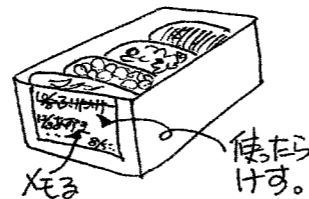
《S》



ほっとカフェ ～ストック品の見える化～

台所には、数々のストック品がいっぱい。
仕分けしたかごに、チェックをしやすいように
品名と賞味期限を書いたら、触らずして一目瞭然。
意識して使うようになりました。

《Kまま》



雨天中止

次回のぼらんず ※ぼらんずとは、毎月のボランティア活動です。

12月13日(金) 15:00~1時間程度 エコロの森周辺



未来を創ろうインタビュー

No.31

古賀 友子 氏

福津市在住の主婦古賀友子さんにお話を伺ってきました。古賀さんとは、エコけんも参加している福津市エコショップ推進委員会でご一緒させていただき大変お世話になりました。現在は、福津市の幼稚園で臨時職員をされておられます。

25年前、ご主人の留学で2年間ドイツ生活をされた経験は、帰国後の古賀さんの暮らしに影響を及ぼしています。ドイツでは、各行政区ごとに、資源ごみをいつでも回収できるストックヤードがあり、誰もが当たり前のように資源ごみを持って行くシステムが根付いていた事や、『護岸整備のために一旦コンクリートで3面張りされた河川は、生態系に良くない』ことが分かればコンクリートを壊し、元の状態に戻した事など、企業や行政、またそれを動かす市民といった社会全体が地球環境の事を考えおのずと行動出来ていることに、古賀さんは衝撃を受けられたとのことでした。ドイツの人々の環境意識がこれほど高いのは、1980年代に深刻化した黒い森の酸性雨枯死やチェルノブイリの原発事故等の大きな環境問題を、国民主体で乗り越えてきた背景があるのかもしれない。

古賀さんは、ドイツでの経験から環境などに関する委員会の公募論文の提出やパブリックコメントを通して、その考え方やアイデアを行政の方へ伝えるようにしてきたそうです。

Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか

A. 地球上では、人間も他の動物や植物と同じ仲間、環境によくない事をすれば結局は自分に返ってくるという事に気付いてもらいたい。

- ・なるべく環境に配慮しているところからモノを買う
- ・勇気を出して行政などに働きかける
- ・ごみの分別(生ゴミ堆肥化)
- ・環境に関する世界の情報をキャッチできるアンテナを張っておく。

未来を創るメッセージ

「こうなったらいいな」で終わらせないで実現したいな♡

3人の息子さんのお母さんでもいらっしゃる古賀さんですが、現在はドイツなど海外からの留学生に、福津市近隣を案内する機会が多くあり、九州や日本の自然を守り伝えたいという気持ちが強くなったそうです。「夢を実現するには、はずかしがらずに声に出して周りに伝えていくことも大切かもしれませんね。」と笑顔で話されていたのが印象的でした。

《N. N》



仮認定 NPO 法人



〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13
TEL/FAX 092-944-6450 [mail]eco_ecoken@ybb.ne.jp
[HP]http://www10.ocn.ne.jp/~ecokenj